

神奈川歯科大学大学院口腔統合医療学講座歯科矯正学分野

神奈川歯科大学大学院口腔統合医療学講座歯科矯正学分野

主任教授 山口 徹太郎

本年4月1日付けをもって神奈川歯科大学口腔統合医療学講座歯科矯正学分野の教授を拝命いたしました。寄稿させていただくこの機に対し深く感謝申し上げます。抱負ならびに分野紹介を述べさせていただきます。

私は1995年に昭和大学歯学部を卒業し、次いで2000年に同大学大学院歯学研究科（歯科矯正学）を修了しました。その後、19年間昭和大学歯学部歯科矯正学講座に奉職させていただきました。2017年にはアメリカピッツバーグ大学歯学部歯科基礎医学頭蓋顔面歯科遺伝学研究所に留学する機会を頂戴しました。

より多くの診療を重ねることは、より質の高い教育に結び付くと考えています。同様に、より多くの臨床情報は、より質の高い研究をすることに寄与します。したがって、臨床、教育、研究を結び付ける、関連付けることを意識しながら実践してきました（図1）。

教育においては歯科矯正学を専攻する若い医局員の臨床、研究指導はもとより、特に学部学生教育においては講義、試験の管理、学生への学習助言等を介して、

優秀で心豊かな学生を育てることに注力し、延いては国家試験合格に結び付けてきました。学習者の到達度に応じた授業に留意し、高い習熟度が得られる工夫を重ねてきました。これまでの経験を活かしながら、講義、演習、実習等を適切に組合せた授業を展開し、後進の育成に尽力していきたくております。

研究の目標は、いかに矯正治療をお受けになる患者さんが抱える課題を科学的に解決するか、にあります（図2）。そのためには、分子生物学、工学などの歯科矯正学以外のさまざまな領域における先端的技术を積極的に導入することによって、より質の高い研究を実施し、診断精度、治療技術向上を目指していく必要があります。大学院学生に対し、治療の『精度』、『効率化』、『快適性』向上のため、研究、開発を指導していきたいと考えております。また、研究目的が最終的には臨床に応用すること、最終的には患者さんに貢献できる研究を念頭に置き、成果をまとめるよう指導してきました。毎日の診療がより良い研究を実践するための基盤であり、そこから見出される臨床上の問題点あるいは重要な課題の解決を目標とします。現在、米国、



図1 臨床、研究、教育は三位一体だと思っています。より良い臨床をより良い研究に、より良い研究をより良い教育につなげていきます。

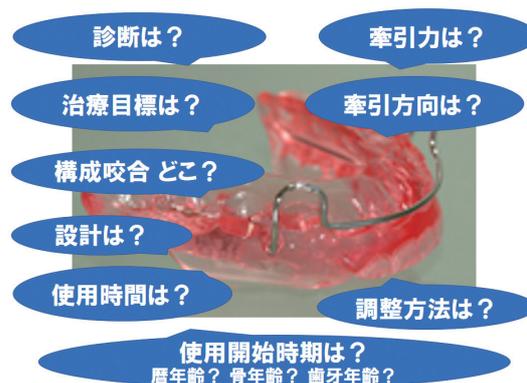


図2 下顎の発育が脆弱な成長発育期の患者さんに機能的矯正装置が適応となります。しかし、その効果発現については不明な点が多いのも事実です。容易ではありませんが、より科学的に解明することが必要です。

韓国、エジプトとの共同研究を進めております。海外を含めた関連機関と緊密に連携・情報交換をしながら研究を推進していくことは、大学院学生にとっても、研究を遂行するうえで、またその成果を学会等で発表する機会などを通して、活動の場が国内外を問わず幅広く展開することに繋がるものであり、今後も積極的に進めていきたいと考えております。

臨床では矯正歯科医の高度な専門性を必要とする業務に必要な診断・検査技法、治療手技、態度を修得させるほか、求められる資質や能力を涵養するために必要なカリキュラムを編成するなど、体系的かつ組織的な教育が求められます。各大学の矯正歯科では臨床研修医修了者を対象に、専攻生課程を設けており、矯正歯科専門医育成のための公益社団法人日本矯正歯科学会の基礎研修・臨床研修施設の認可に基づき、学会認定医規則に準じたカリキュラムが必要となります。認定医申請の条件を満たしたものが、学会の認定医取得申請を進めてもらうことは、本人たちの動機付けのみならず、診療の質を担保するうえでも意義あるものになると考えております。

現在、有給者、大学院生、臨床専攻生、ならびに非常勤教員とともに日々の臨床、教育、研究に邁進しております(図3)。有給者は他3名です。岩田敏男診療科講師は2013年7月に本学に着任し、臨床におけ

る後進指導、臨床実習連絡委員として学部学生教育に専心しています。歯周組織再生に関する基礎的研究および口唇裂・口蓋裂患者に関する臨床研究を行っています。大塚剛郎助教は日本大学歯学部卒業後、2008年まで本学大学院歯学研究科(歯科矯正学)、2014年3月まで歯科矯正学分野にて特別研究員を経て、2014年4月から口腔科学講座歯科矯正学助教、2017年4月口腔統合医療学講座に再編、同講座助教、現在に至っております。学部学生教育において歯学部1年生では「臨床基礎概論」、4年生では「歯科矯正学基礎実習」、5年生・6年生では「臨床実習」を担当しています。ヒトの脳活動状態に着目し口腔状態(咬合状態や口腔生理機能)を客観的に評価することについての研究を行っています。小泉創助教は、平成23年3月に本学にて学位を取得(歯学博士)、本学成長発達歯科学講座歯科矯正学分野(口腔統合医療学講座歯科矯正学)特別研究員、その後、特任助教として入局し、自律神経系とストレスと咬合をテーマに研究を進めています。

診療、教育、研究いずれにおいても、本学の発展に貢献できるよう努める所存であります。引き続き変わらぬご指導、ご鞭撻のほど、何とぞよろしくお願い申し上げます。



図3 集合写真(2019年8月31日)